



中山 南龍先生がおっしゃった台湾の蘇澳鎮との交流の碑はしっかりと新庁舎に移設されています。

五〇年間お世話になってきた旧庁舎ですが、美崎町という埋立地に旧庁舎が出来て、その周辺に街が形成されていきました。その歴史を大切に、また、これまでの各友好都市などとの交流も受け継いで、次の歴史を積み重ねていきたいと思っています。これからは新庁舎を中心に新しい街が形成されていくと思います。

この旧空港跡地でこれから開発が進められていくと思います。新庁舎を中心に、また新しい街が出来ていく中において、これまでの歴史を途切れさせることがないように、百年庁舎を目指して行けたらと思います。そんな中で、南龍先生に続くような書家が石垣から輩出されたら良いと思います。

新庁舎と石垣市の発展

茅原 書家業をしていて思うことがあります。

私が幼い頃に見た中国の山水画の話なんです。あれはずっと想像で描いたものだと思っていました。ですが、実際に中国に行ってみると現存しているんですね。あれにはとても驚きました。その様な環境で、何千年という歴史が刻まれ、文字が生まれ、日本に伝来した。その息吹を受けて文字の尊さ、敬愛の念がどんどん増していきました。

私が本州に渡って、書家の皆さまと競

い合えたのは、山紫水明に恵まれたこの島に生まれたからこそだと思っています。

この新庁舎からは於茂登岳と前勢岳に、竹富町の島々も見えるという素晴らしい位置にあります。

この場所に多くの子ども達が来て、世界に夢を馳せていける場所だと思っています。

限先生と初めてお会いして、これまで積み重ねてこられたエネルギーを感じました。人は全身にエネルギーがどんなに蓄積されているものだと思います。書の道も同じで、ものを読んで、心を豊かにしていかないと良い文字は書けないと思います。どの道も行きつくところは心だと思っています。石垣に生まれた郷里を愛する人間として、世界に誇れる島だと思っていますし、その思い



が私の文字の一面一面に入っていると自負しています。

限 南龍先生がお城とおっしゃいました。石垣の緑の中で、丘の上に建つ新庁舎が、景観のへそとなるようなまきにお城が、みなさんの力で出来たと思います。

これからの石垣がどうなって行くのかという点で、一つの舵取りの役割になると思います。

大都市の弊害というのが、コロナ禍ではつきりとしたと思います。コロナ後に自然の中へどうやって戻って行くか、自然の中でどうやって新しい経済を作って行くかを考えた時に、石垣に可能性を感じています。

そういう可能性を一つ建築という形で表現することができたのかなと思っています。自然、伝統、いろいろな資産を使って、コロナ後の世界に大きなリーダーシップの役割を果たしていくのではないかと思います。市長と南龍先生とお仕事が出来て良かったです。

中山 島ですから、文化の継承と発展のバランスが重要です。豊かさと伝統をしっかりと融合させて更に良い島にしていきたいです。この庁舎が今後百年どの様な色になっていくか楽しみます。本日はお二方ありがとうございました。

さて、11月15日に新庁舎が開庁します。バリアフリー化はもちろん、赤ちゃんやお母さんに優しい授乳室が備わっています。是非用事がなくても市民の皆さまが立ち寄っていただけるような市役所になれば良いと思います。

皆さまに利用して頂くことで建物自体を成長させてほしいと思います。是非遊びに来てください。



対談の動画は、準備が整い次第、公式YouTubeチャンネルで公開します。是非、チャンネル登録をお願いします。

